

モニターツアー 参加者の声

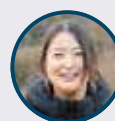
令和6年度実施のプログラム参加者へ インタビュー



今年度の第2のふるさとづくりプロジェクトモデル実証事業で実施したモニターツアーに参加された来訪者の皆さんへ、プログラムを知ったきっかけや参加の動機、いくたび（再来訪するたび）に深まったものなどをお伺いしました。

モニター参加者.01

柴田さん（29）
広告代理店勤務／東京都在住



@長野県生坂村 → P20-21

いくさか『創造の森』を舞台に開催された「旅するいきもの大学校」全6回のプログラムは、ゼロカーボンビレッジを掲げる長野県生坂村で始めるリジェネラティブ・ツーリズム。本プログラムの第1回目から参加した柴田さんに来訪・再来訪動機を伺った。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

企業プログラムの一環で知ったことがきっかけです。もともと生き物が好きということもあり「ネイチャーポジティブと何度も訪れなくなるふるさとづくり」という企画にワクワクしました。

参加の動機 >>>

山形県出身で、現在は東京に住んでいます。いくさか『創造の森』という里山を舞台に、生物多様性や自然再生の先にある新しい里山の姿を見ることが楽しみになりました。

再来訪の動機 >>>

当初から4回のプログラムと聞いており、再来訪をしていました。土日が多く翌日は仕事のことも多いのですが、来るたびに生坂村が好きになり、プライベートでも森の散策に訪れました（笑）

いくたび（再来訪をするたび）に深まったもの >>>

参加者の皆さんが生き物に詳しくてびっくりしました！「生き物が好き」というだけで、こんなにも会話ができるのかと。来るたびに新しい発見と交流、つながりができて嬉しかったです。

モニター参加者.02

池口さん（29）
カメラマン／愛媛県松山市在住



@愛媛県大洲市 → P14-15

「地域の文化を未来へとつなぐ」という観光まちづくり理念を掲げる大洲市。大正9年に開業し、地元の人たちに愛されながらも2022年に閉業した「よしの湯」で当時の常連さんも交えて、再開発をするならどんなことが考えられるかなどを話すイベントが開催された。同イベントに参加された池口さんに来訪の動機を伺った。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

結婚を機に埼玉県から愛媛県松山市に移住しました。大洲の知り合いから「大洲カンパニー」を紹介いただき、その中で今回の文化財活用プログラムを知りました。

参加の動機 >>>

いろんな体験プログラムがありましたが、地元で愛されつつ閉業した銭湯が舞台になっているというプログラムが「サステナブルシティの大洲らしいな」と思ったのが参加の動機です。

再来訪の動機 >>>

「おおず夜まで迂回バル」や「アートイベント」など地域全体が盛り上げているおもしろいイベントが多いのと、ご縁があってカメラマンとしても月に1回ほど行っています。

いくたび（再来訪をするたび）に深まったもの >>>

大洲はいくたびに「会話が増える」まち。お店の人とはもちろん、来訪者同士でも「大洲何回目ですか〜？」って話せる。まち全体が歓迎してくれていて、自然と馴染める雰囲気があります。

モニター参加者.03

折原さんファミリー
北海道在住



@北海道洞爺湖町 → P24

北海道の南西部に位置する洞爺湖に面するトーヤの森。この森を舞台に、旅行だけでは味わえない森の魅力に触れ、森への理解を深める「できあがっていく旅」というプログラムが行われた。10月に行われたプログラムに親子で参加した折原さんファミリーにお話を伺った。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

洞爺湖の自然に魅力を感じ、数年前に移住。環境に配慮しながら人と森をつなぐトーヤの森の活動に興味があり、Instagramをフォローしていたところ、今回のプログラムを知りました。

参加の動機 >>>

季節ごとの森の様子や遊び方の違いも体験したく、夏と冬と2回参加。子どもが何かを発見するとみんなが「いいね！それ！」と共感してくれて。子どももまた行きたい！と言っていました。

再来訪の動機 >>>

自然がきれいなことに加えて、関わっている方々の素晴らしさと魅力が一番です。森の楽しさを教えてくれて、一緒に冒険に連れて行ってくれる。そんな仲間に入れて嬉しかったです。

いくたび(再来訪をするたび)に深まったもの >>>

初めは「気軽さ」からスタートしましたが、行くたびに関わる方々の魅力に触れ、再来訪したくなりました。歓迎してくれる心地よさと「ここに来て大丈夫」という安心感が生まれました。

モニター参加者.05

荻原さん(54)
会社員/東京都在住



@新潟県南魚沼町 → P16_17

「帰る旅地域クリエイターズCAMP2024」と題した今年度のプログラム。地域に一步踏み込んで「地方部で働いてみた自分」に没入できるような、地域での活動を自分ごと化していくプログラムが数種類提供されました。7年ほど前に南魚沼と出会い都内で働きながら、月1回程度、新潟県南魚沼市へ来ている関係人口の荻原さんにお話を伺いました。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

令和元年にこの地域で開催されたアイディアソンに参加した際、主催者の井口さんを紹介されたことがきっかけでした。その出会いが私とこの地域との深い関わりの始まりでした。

参加の動機 >>>

以前から週末だけで、どこかの地域で何かお手伝いをさせてもらいながら、趣味であるスキーを地域の人と一緒に楽しめるようなことを実現したいと思っていたため、参加してみました。

再来訪の動機 >>>

地域の方々との交流を通じて、地域への興味関心が広がりました。また、この地域の四季折々のカラーが自分にとって心地よいと感じるようになり、再び訪れる意欲が湧いてきました。

いくたび(再来訪をするたび)に深まったもの >>>

地域の方々との交流が深まり、何かお手伝いすることで自分の居場所ができたと感じています。帰るたびにお互いに近況を語り合えるような、リラックスできる環境が生まれました。

モニター参加者.04

藤井さん(22)
大学生/富山県在住



@富山県南砺市 → P12_13

「彫刻師の町」として知られる富山県南砺市井波。そんな井波が誇る国の伝統工芸「井波彫刻」の学びを入り口としたつくる人をつくる in「井波彫刻塾」プログラム。SNSをきっかけにこのプログラムを知り、歴史や文化も学ぶDX(デラックス)コースに参加した藤井さんにお話を伺った。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

もともと地方創生の取組に興味があり、ジソウラボさんのSNSをフォローしていました。そのSNSで今回のプログラムを知りました。

参加の動機 >>>

観光視点でのまちづくりを学びたくて、井波彫刻や歴史も勉強できるDXコースに参加しました。歴史をつなぐことの大切さや、「暮らしやすくなるための」まちづくりへの発見もありました。

再来訪の動機 >>>

4回来訪しましたが、2回目に焚き火を囲いながら、みんなで本音で話す機会があって。それを機に、事務局や参加者同志の距離が縮まって、「みんなに会う」ことも目的に加わりました。

いくたび(再来訪をするたび)に深まったもの >>>

井波には一人でも行けるけど、皆さんと一緒に参加するからこそ違う視点を教えてもらえたんです。そして、学びを深めるうちに点が線になり、自然と人が循環していることを体感できました。

モニター参加者.06

西田さん(20)
大学生/大阪府在住



@香川県琴平町 → P10_11

来訪者が「地域の一員」として町への貢献・役割を生み出すプログラムを造成した琴平町。「学生向けインターンプログラム」では、仕事やお手伝いを通して地域貢献や交流機会を提供している。同プログラムに参加し、昨年度から数えると10回以上の来訪をしているという西田さんにお話を伺った。

Voice

同プログラムを知ったきっかけ >>>

大学生のうちにいろいろな仲間と出会いたいと思い、「旅」を軸にしたウェブメディアTABIPPO学生支部に加入。そこで、琴平のプログラムを知りました。

参加の動機 >>>

TABIPPO学生支部のメンバーが「琴平いいところだよ。行ったほうがいいよ〜！」と勧められ、「何がそんなにいいんだろう？」と気になって、自分でも体験したくなり参加しました。

再来訪の動機 >>>

令和6年度は7、8回来訪したのですが、「麻心」というお店のマスターの人柄に大変惹かれ、マスターに会いに行くことが一番の動機になっていました。町自体ももちろん大好きです。

いくたび(再来訪をするたび)に深まったもの >>>

小さな町だからこそ、どんどんつながりも深くなっていくし、行くたびに、年代も関係なくおもしろい人たちと出会えます。「おかえり〜」って言ってもらえる関係性がとても心地いいですね。

モニターツアー参加者 アンケート調査結果



令和6年度採択実証事業者12地域にて実施したモニターツアー参加者に対して行ったアンケート調査結果を紹介します。

調査方法

インターネット調査

実施時期

【事前アンケート】 2024年9月10日(火)～12月27日(金)

【事後アンケート】 2024年12月27日(金)～2025年2月3日(月)

調査対象

12地域の各プログラムへの申込者 有効回収数 計261名

回収数内訳

【事前アンケート】 173名

【事後アンケート】 145名（うち57名は事前・事後アンケートの両方に回答）

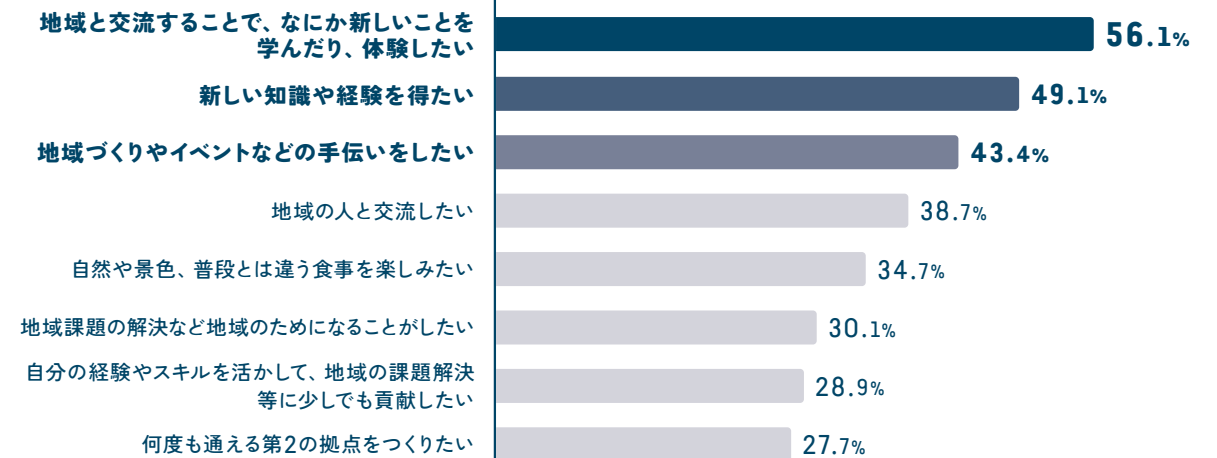
参照：第10回「第2のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議資料



来訪への期待と再来訪動機

今年度のプログラムに参加した皆さんの、期待や再来訪をするきっかけとなった動機をお伺いしました。

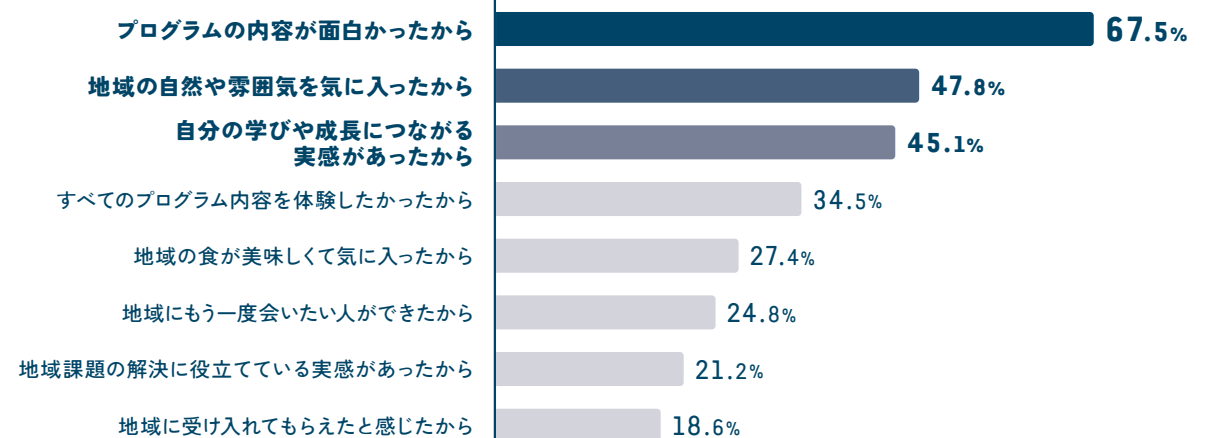
今回のモニターツアーの参加にあたって期待したこと（回答上位8項目抜粋）



Point

参加の動機としては「地域と交流することで、なにか新しいことを学んだり、体験したい」がトップ。学び・経験を期待して参加している。

2回以上の来訪（再来訪）に至った理由（回答上位8項目抜粋）



Point

再来訪につながった理由は「プログラム内容が面白かったから」が最大の理由。体験・学びに加えて、地域の自然や雰囲気を楽しめたり、地元の人との交流、参加者同士の交流といった要素が、「面白かった」や「また行きたい」という気持ちにつながっている。

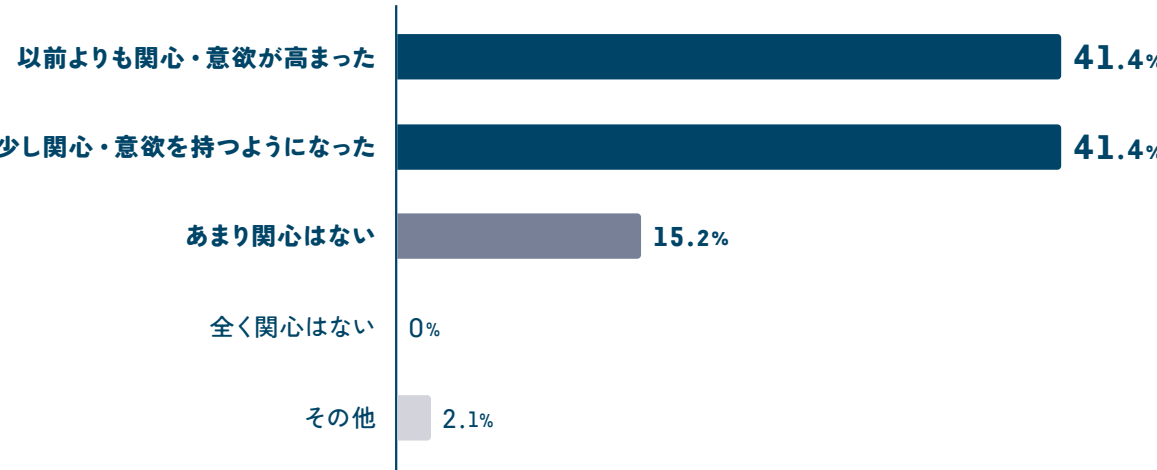
2回以上この地域に訪れることを決めた理由や気持ち（抜粋）

- ・地域の方を初め、事務局の方々がとても親切に対応してくださり、第2の故郷のように感じたため。（埼玉県在住／19歳男性）
- ・とても勉強になり将来的にガイド業を行うのにプラスになると思った。（福島県在住／53歳男性）
- ・宿泊した際に食べた料理を参加者全員で囲んで食べる時間が楽しくて幸せだったことが一番大きな理由です。（東京都在住／27歳女性）
- ・四季折々の楽しめるコンテンツが違っており、楽しみ方のバリエーションがあるため通いたくなりました（福島県在住／39歳女性）

参加後の来訪意向の変化

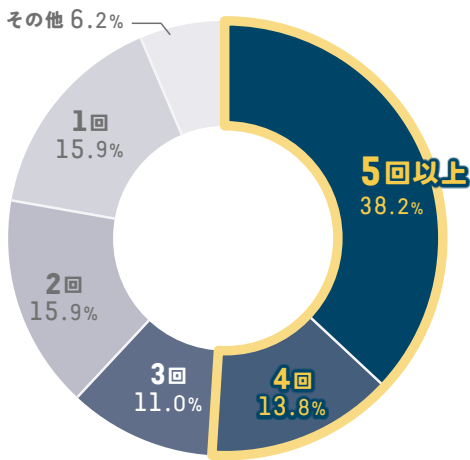
来訪後に地域への興味関心や再来訪への意向がどう変化したかをお伺いしました。

あなたは、今回のプログラムに参加して、『二拠点・多拠点生活』への関心や意欲は変化しましたか？



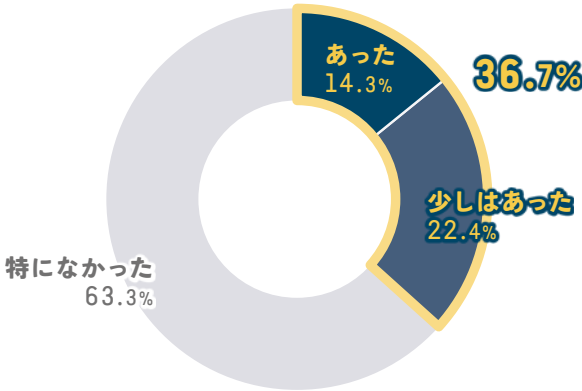
『二拠点・多拠点生活』への関心や意欲が、「以前よりも関心・意欲が高まった」と「少し関心・意欲を持つようになった」がそれぞれ41.4%で、合わせて8割割以上が関心・意欲が高まったと回答。本プログラムが二拠点・多拠点生活への意欲向上に寄与したことが確認できた。

初回プログラム実施月以降に地域を訪れた回数



「4回以上」来訪した人は51%

途中で「次回以降、行くのをやめようかな」「今回は休もうかな」など、気持ちが乗らなかったこと



「4回以上」来訪を意識していた参加者の1/3が途中離脱を意識したことがある

離脱に対するリカバリーポイント

期間中に複数回来訪を促すプログラムを創出した地域が多かったが、参加者の中には仕事や体調不良、家庭の事情などによる欠席や中断した方もいました。一方で、仕事の忙しさや移動の負担感などが原因で欠席や途中辞退を考えたことがあったものの、楽しみが上回ったことでリカバリーにつながったという結果も見えました。

リカバリーできた要因

事務局の対応(次回案内の連絡や受け入れ姿勢など)、参加者同士の交流(チャット等)や食の魅力もモチベーションダウンをリカバリーできた要因としては重要な役割を果たしていました。リカバリー要因の一例と参加者の声を紹介します。

Voice.01

プログラムの魅力

「仕事が詰まっていた時期、正直参加を悩んだ瞬間もありましたが、**プログラムの結末が見たかった**ので、仕事は移動時間にやる、と気合いを入れて乗り切りました」

Voice.02

景色

「ちょうど冬になり、スタッドレスタイヤの準備が遅れてしまい、来訪時どうしようかと思いましたが、**雪景色も見てみたい**と思い、参加を継続しました」

Voice.03

プログラムの魅力 事務局の対応

「行くことの労力を考えると、欠席も頭によぎらなかったかと言うと嘘になりますが、**予定の日程が来たら行きたい・楽しみの気持ちに切り替わっていました**」

Voice.04

食事 事務局の対応 参加者同士の交流

「仕事の繁忙期とかぶる時期は、体力的に辛かったが、おいしい食べ物が待っていることと、**事務局の方や参加者と話すことが楽しかった**ので、参加しました」

Voice.05

事務局の対応 参加者同士の交流

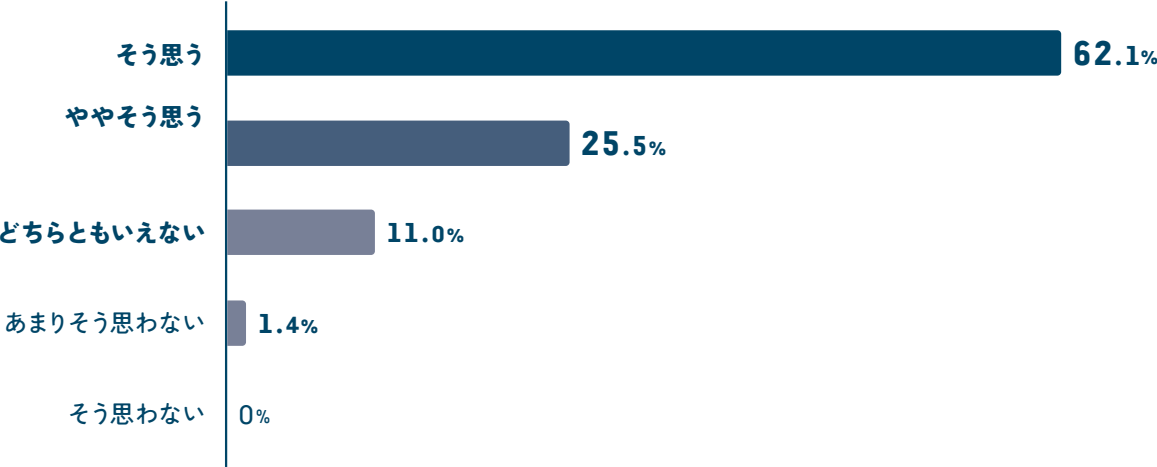
「物理的な距離や移動時間を考えると、気持ちが乗らないこともあったが、地域の皆さんや、**参加者の皆さんとのLINEでのやり取り**があり、お互いに楽しみや目標を共有でき、継続できました」

Voice.06

食事 事務局の対応

「子どもが行きたくないと言い出してしまい、モチベーションを保つのが大変でしたが、**おいしい食べ物やLINEでイベントの告知**をしていただいたことで、なんとか連れて行くことができました。」

今回のプログラムに参加して、この地域に継続的に訪れたいと思うようになりましたか？



今回のプログラムに参加したことで、継続的な来訪意向を持った人は87.6%だった。

第2のふるさと

A NEW HOMETOWN

地域との繋がりに着目した新たな旅のスタイル

これまでの旅とは異なる「何度も地域に通う旅、帰る旅」。継続的かつ多頻度での来訪を促進する旅のスタイルや再来訪に向けた第2のふるさとづくりの取組が推進されることを期待します。



Information

第2のふるさとづくりプロジェクトに関する情報を公開しております。ご参照ください。



「第2のふるさとづくりプロジェクト」に関する有識者会議

本プロジェクトの取組の方向性や具体的な取組内容について検討を行うため、有識者会議を開催しています。



第2のふるさとづくり推進ネットワーク登録申請フォーム

本プロジェクトに関心のある地方公共団体、観光地域づくり法人（DMO）、民間事業者等による情報交換の場として「第2のふるさとづくり推進ネットワーク」を開設。登録は申請フォームよりお願いします。



「第2のふるさとづくりプロジェクト」公式Instagramアカウント

本プロジェクトを広く知っていただくことを目的に、「まちが、わたしが、育つ旅。いくたび」をテーマに、各地での魅力的な旅のプログラム等を紹介しています。

観光庁観光地域振興部
観光資源課

E-MAIL: hqt-okaeri@ki.mlit.go.jp URL: <https://www.mlit.go.jp/kankocho/>
発行年月：2025年3月



まちが わたしが 育つ旅。

いくたび>>>>

じっくりと 育ててみる。
ゆっくりと 観察してみる。
しっかりと 学んでみる。

同じまちに何度も行くことで生まれる
ゆたかであたらしい旅の体験、それがいくたび。

行くたびに、
新しい発見をする。
行くたびに、
親しいものが増えていく。
行くたびに、
人がまちが元気になっていく。

見るもの 食べるもの 触れあうもの
すべて大切なものへと変わり、
そのまちはあなたにとって第2のふるさとになってゆく。

さあ、退屈ないつもから少し離れて、
新しい場所と自分に会いに行こう。



produced by
第2のふるさと
A NEW HOMETOWN



観光庁
Japan Tourism Agency